

「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」



広く世界の子どもたちのことを知り、
仲良く助け合う気持ちを育む



現在の私たちの生活は、国際的な関わりを抜きにしては考えられません。このためには、お互いが相手を正しく理解し、交流を深めていくことが大切です。「青少年赤十字100周年」をきっかけに、JRCメンバーが中心となり日本と世界を「つなぐ」ことで、また新たな100年へ向け、ともに活動をつづけていきましょう。



『気づき・考え・実行する』



青少年赤十字は、活動の中で
『気づき・考え・実行する』過程を
大切にしています。

気づき

ルワンダについて学ぶことで、ルワンダはどんな国なのか、そこで生活している子どもたちはどんな生活をしているのか私たちとはどう違うのか「気づき」、

考え

私たちには何ができるか、募金の集め方や、周りへの協力の促し方を「考え」、

実行する

募金活動を「実行する」。また、ルワンダについて勉強会を開催するなど、どんな形で実行するのかは参加するJRCメンバーのアイディア次第です！

ルワンダについて学ぶ機会を提供します

- ルワンダ現地からのメッセージ動画
- ルワンダ現地駐在員による活動レポート
- 勉強会やグループワーク等で活用できる教材、現地の写真
- 講師派遣(大学生や日赤職員がルワンダと本事業についてお話しします)

※ご希望の方はお電話にてお問合せください。

提供可能な
募金用資材

ポスター、リーフレット、募金箱

ご希望の方は「資材申し込み用紙」にご記入の上、FAXにてお送りください。



お問い合わせ先

日本赤十字社東京都支部 事業部 青少年・ボランティア課
〒169-8540 新宿区大久保1-2-15

TEL 03-5273-6751 FAX 03-5273-6749
MAIL seishonen@tokyo.jrc.or.jp

青少年赤十字 100周年記念
ルワンダ子ども支援募金

ルワンダには、
学校に通うことができない
子どもたちがいます。



Photos by Rwanda Red Cross



わたしたちには
何ができるでしょうか

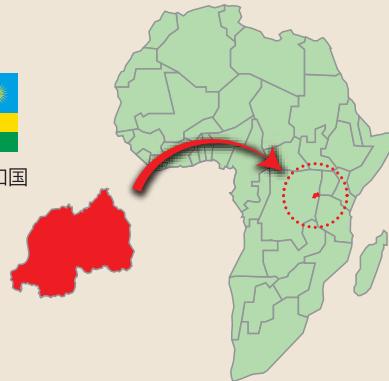


概要

2022年に青少年赤十字（JRC）創設100周年を迎えるにあたり、JRCメンバーが『国際理解・親善』を目的に取り組める活動として、2022年4月～2023年1月に「青少年赤十字100周年記念ルワンダ子ども支援募金」を受け付けます。



ルワンダ共和国



経緯

2019年12月より、日本赤十字社はルワンダ共和国南部の経済的に貧しい5つの村を対象に、ルワンダ赤十字社との共同事業を開始し、駐在員を派遣しています。

2021年1月、東京都支部では、青年学生赤十字奉仕団(RCY)の中でも国際活動に関心を持つメンバーで、グローバル・プロジェクト・チーム(GPT)を発足しました。GPTは、特に事業地域で国際貧困ライン以下の暮らしをしている子どもたちについて学びを深めていき、ルワンダの子どもたちのために募金事業を開始することとなりました。

今回、青少年赤十字が100周年を迎えるにあたり、普段は取り組む機会が少ない『国際理解・親善』の実践目標にルワンダの子どもたちが抱える問題を通じて取り組むこととしました。



RCYメンバーとJRCメンバーでルワンダについて学び、ルワンダで暮らす同世代の「子どもたち」のために、「いま、私たちにできること」にともに取り組んでみませんか？



※支援対象地域であるギサガラ郡で暮らす住民のほとんどは、絶対的貧困線以下（1.9米ドル／日）で生活しているとされ、1日1食の厳しい生活を送っている。

ルワンダの教育における問題点



小学生から留年、退学してしまう

親の病気や予期せぬ災害による畠・家畜の喪失などから、経済的理由により学校に通うことを諦めざるを得ない子どもたちが多くいます。

また、普段から家の手伝いや畠仕事を優先することで、『学校に通うという当たり前』が奪われてしまうという現状があります。

小学1年生の就学が遅れる

ルワンダでは戸籍の整備が十分でないため、本来は学校に通うべき子どもが見落とされ、7歳になっても小学校に通えないケースが多くあります。



みんなの募金で このような活動を行います



- ① 経済的に学校へ通うことが難しい家庭へ制服や文房具などの学用品を届けます



家族の病気や死などが原因で収入が極端に減少し、学校に通うことができなくなった子どもの家庭に、制服や学用品などを届けます。

- ② ルワンダ赤十字ユースボランティアが『学校に行くことの大切さ』を地域に伝えます



地域の高校生で結成されているルワンダ赤十字のユースボランティアメンバーが、住民集会の場などで子どもをもつ家庭へ『学校に行くことの大切さ』について啓発します。

- ③ 翌年小学生になる子どもたちが誰ひとり取り残されないよう入学をサポートします



住民団体と協力し、地域の6歳児リストをつくり、翌年小学生として就学できるようサポートします。